

青山 幸生 議員（代表質問）

1 家庭ごみの有料化について

- (1) 家庭ごみの有料化制度について、「燃やせるごみ」を有料化する方針とのことだが、これは決定事項か。
- (2) 剪定枝と刈り草（草刈りごみ）は有料化の対象外（無料）という認識で間違いないか。
- (3) 専用指定袋は富山市と共同作成（合同）か。また、袋への広告掲載についてスポンサーを募集するとのことだが、何社程度を想定し、どのくらいの広告料収入を見込んでいるか。
- (4) 手数料収入の使途は「資源循環型社会の形成」、「衛生的な社会環境の保全」、「地域振興関連事業」などに活用するとのことだが、具体的な事業内容（詳細）はどのようなものか。

2 コミュニティバスの運用について

- (1) のる my car の第5便ダイヤの改正が行われるが、対象となる菟輪、大日室山、小森、栗山の各ルートについて、住民からのニーズや要望などの意見を踏まえての変更なのか。
- (2) このダイヤ改正に伴うターゲット層は、どの年代のどのような利用者を想定しているのか。
- (3) 寺町ルートの早朝の出発点が寺町ではないのはなぜか。
- (4) よぶマイカーの第2期実証運行時間は7時30分から18時であるが、来年度以降における「のる my car」との統合・集約や、今後の展望についてどのように考えているのか。

3 DXに伴うイノベーションについて

- (1) 防災対策推進費 120 万円で実施される「洪水ハザードマップのデジタル化に伴う公開地理情報更新業務」について、具体的にどのような仕様や内容に変更されるのか、その詳細を伺う。また今後のGISの整備はどうか。
- (2) 市教育委員会は「児童・生徒の安全確保を最優先に予算対応する」としている。しかし現状、西部小学校をはじめとする市内校の電話回線はわずか2回線にとどまり、グラウンドやプールなどで携行できる通信端末もない。熱中症や不審者対応など、一刻を争う危機管理が求められる中、現在の通信環境で児童・生徒の安全確保が十分に担保できていると考えているのか、教育長の見解を伺う。

4 道路の修補について

- (1) 市道として認定している道路のうち、アスファルト舗装がされていない（未舗装と既設コンクリート）市道の各総延長はどのくらいか。
- (2) 通学路安全対策事業費における3路線の整備の進捗状況はどうか。

原 明 議員（代表質問）

1 食料品減税による影響について

- ・ 政府は、2027年4月から2年間、飲食料品の消費税率を8%から1%に引き下げる方針を閣議決定した。秋の臨時国会に関連法案を提出し成立を目指している。法案が成立した場合、消費税の税収が富山県では県と市町村分を合わせて年間169億円減少する試算が示された。滑川市はどれくらいの減少が見込まれるか。

2 エアコン省エネ基準の引き上げによる影響について

- ・ 国は、電力節減と環境負荷を減らす目的で、省エネ法に基づき2027年4月にエアコンの性能基準を引き上げる。このため製造コストと販売価格の上昇が懸念されている。夏の平均気温が上がり熱中症で救急搬送された人の数は2025年は過去最多となったと報告されており、うち高齢者が6割近くを占めている。発生場所は住居が約38%で最多となっていることから、エアコンの適切な使用の呼びかけが必要である。価格の上昇により、故障していても買い替えをためらい、命を危険にさらす人が出ないように、一人暮らしの高齢者や低所得層へのエアコン購入助成が必要である。当局の見解を伺う。

3 行田公園の管理、整備について

- (1) 昭和39年に開園してから60年以上経過している行田公園は、800種を超える多様な植物が生息する約6.6haの森であり、市民の皆さんが四季を通して、水と緑に親しむ憩いの公園であるが、開園以来植物の剪定を含め樹木管理がどのようにされているのか伺う。
- (2) 公園内を流れる中川沿いの歩道整備の計画はされているのか。

4 東部山麓道路の整備について

- (1) 整備が進む、入会橋からみのわテニス村までの東部山麓道路の供用開始は今年中になると聞いている。残されたみのわ温泉から豊隆橋までの区間の1日でも早い完成に向け、取り組まなければならないと思うが見解を問う。
- (2) 主要地方道蓑輪滑川インター線の改良、整備について県へ要望されるよう求める。
- (3) 林道東福寺線の整備について
- (4) のる my car のルート変更について

5 有害鳥獣対策について

- (1) 昨年度の有害鳥獣による農作物への被害状況と被害総額を伺う。
- (2) 昨年は全国的にツキノワグマが市街地に出没し、襲われて負傷する人が相次いで報告された。今年も春以降、市街地や住宅街での熊出没が相次いでおり、秋に向けて熊の出没や人身被害の予防対策が望まれている。国は、熊の保護重視から個体数の削減・管理の徹底へ転換する方針を打ち出した。
 - ア 昨年の熊捕獲頭数は何頭か。
 - イ 今年度の捕獲目標は何頭か。
- (3) カメラの映像を人工知能（AI）が24時間体制で分析し、熊の出没を自治体などに通知するシステムが全国に拡大しており、県内では8市町村が利用している。本市での利用について伺う。
- (4) 中山間地域では、猿による被害のため畑作物の栽培が困難な状況であると聞いている。昨年度の捕獲頭数、今年度の捕獲目標頭数を伺う。
- (5) イノシシの捕獲頭数を伺う。
- (6) 狩猟免許を持つ公務員「ガバメントハンター」の育成について本市の取組を伺う。

6 市道、河川の管理、維持について

- (1) 市道については、センターライン等の白線が消えている道路やクラックのある道路、ガードレールの破損などが多く見受けられ、市民から修繕を要望する声が多く寄せられている。建設課としては、道路のパトロールを通して、管理、維持作業に当たられているが、どのようなパトロールを実施されているのか伺う。
- (2) 市内を流れる河川のパトロール、維持業務について伺う。
- (3) 市の管理、維持する市道、河川と、県が管理、維持する県道、河川の現状の把握や現地の認識が、市、県ともに十分に理解されているのか。
- (4) 地域インフラ群再生戦略マネジメントの導入を検討してはどうか。

7 農業の振興について

- (1) 2027年4月から予定されている消費税率の引下げによる農家への影響をどのように見ているのか。
- (2) 消費税率引下げにより、多くの農業者は利益が減少となる。2026年度産の新米の概算金も決まり始め、J A全農とやまはコシヒカリ1等米で前年比23%減の2万円が提示された。米穀機構が4月時点で試算した玄米60キログラムの生産にかかるコストの指標は2万535円となっており、概算金の目安を上回っているため農業をやめる農家が増えるのではないかとの見方も出ている。県、国へ農家への給付や補填など対応を強く求めている。市長の見解を伺う。
- (3) 今定例会に計上されている豊かな農村づくり推進費の農業者への支援内容について伺う。

8 ベトナム、ダナン市ホイアン坊との 友好交流締結について

- (1) 今年度内の友好交流締結に向けた進捗状況を伺う。
- (2) 友好交流締結に合わせて滑川市をPRするツアーを企画してはどうか。

9 北加積、東加積両小学校のグラウンド整備について

- ・ 8月末の豪雨によるグラウンドの排水状態はどうであったか。

谷崎 潤一 議員（一般質問）

1 都市公園の維持管理について

- (1) 遊具の定期的な点検を行なっているのか伺う。
- (2) スポーツ・健康の森公園の遊具や砂場の破損、築山の劣化の修繕は検討しているのか伺う。
- (3) 今後新しく都市公園の建設を検討しているのか伺う。

2 街灯設置補助について

- (1) 要望書の提出から交付決定までに要する期間について伺う。
- (2) 要望書の提出が5月下旬頃までとなっているが期限の撤廃はできないのか伺う。

3 滑川市エコハウスリノベーション推進事業補助金について

- (1) 個人がDIYで高気密高断熱工事を施工した場合、滑川市エコハウスリノベーション推進事業補助金の申請は可能か伺う。
- (2) 一部改修でも適用されるのか伺う。

4 教育の多様性について

- ・ 中学校の制服について
 - ア 令和8年3月・6月定例会で質問のあった「選択制ブレザー制服」の議論の進捗状況を伺う。
 - イ 学生服の完全自由化を導入している自治体もあるが、滑川市での制服の自由化・選択化などの検討はできないか伺う。

高橋 悟 議員（一般質問）

1 富山地方鉄道本線の存続、廃止問題について

- (1) 滑川市が行ったアンケートによると、滑川駅以東の路線の存続について67%の市民の方々が必要という結果になったが、存続の方向であるのか、市長の考えを改めて問う。
- (2) 地域交通の全体最適化に向けた検討にあたっての要望書を富山県知事に提出されたが、十分な回答を得られるまでは路線の存続、現状維持と考えていいのか。
- (3) アンケートや各地区の説明会で市民の方々から寄せられた、運賃が高い、本数が少ないなどの富山地方鉄道に対する不満の声を会社側には伝えているのか。

2 市内小学校の体育館空調設備整備について

- ・ 残り5校（田中・寺家・南部・北加積・東加積小学校）の体育館空調設備はいつ整備されるのか。

3 寺家小学校、南部小学校の放課後児童クラブ施設について

- ・ 寺家小学校、南部小学校の放課後児童クラブ施設を学校に隣接した場所に建設はできないか。

4 高齢者にも利用しやすいよぶマイカーについて

- ・ よぶマイカーの利用方法や予約の仕方がわからない高齢者の方のために、わかりやすく解説したペーパーを配布してはどうか。

尾崎 照雄 議員（一般質問）

1 市民会館大ホールについて

- (1) サン・アビリティーズ滑川及び滑川市産業研修センターを、大ホールのバックヤード機能として活用し、隣接するスポーツ・健康の森公園周辺に、大ホールを中心とした文化施設を新設するという考え方を、一つの選択肢として検討してはどうか。
- (2) 滑川市文化会館建設基金設置条例が平成5年4月1日に施行されてから今日までの経緯を振り返ったとき、市長の現任期中に大ホールを建設するべきではないかと考えるが、市長の見解を問う。

2 R S ウイルスワクチンについて

- (1) 高齢者のR S ウイルス感染症について、現在どのような認識を持っているのか伺う。
- (2) 高齢者のR S ウイルス感染症について、市の広報誌やホームページ、健康教室などを活用し、市民への正しい情報提供を行ってはどうか。
- (3) 高齢者のR S ウイルスワクチン接種への助成について、重症化・入院の抑制、健康寿命の延伸、介護予防、さらには将来的な医療介護費の抑制という観点から、費用対効果を検証してはどうか。
- (4) 国や他自治体の動向を見るまでもなく、高齢者のR S ウイルス感染症から市民の健康を守るため、市独自の接種費用助成制度の創設も選択肢の一つとして、調査・研究を進める考えはないか市長の見解を伺う。

3 医療的ケア児支援法の改正について

- (1) 令和9年4月の改正法施行を見据え、本市における支援の受け皿拡充と地域格差の解消に対する見解を伺う。

- (2) 本市における、18歳以降を見据えた相談支援や就労・日中活動の場の確保、移行期医療の円滑化、住居や生涯学習の機会確保などを一体的に推進し、「18歳の壁」を解消する体制整備に関する見解を問う。
- (3) 改正法には、家族の休息を確保する一時預かり（レスパイトケア）の拡充やきょうだい児への支援に加え、特に負担の大きい在宅での夜間ケアを支える医療・福祉サービスの提供が盛り込まれた。本市においても、医療的ケア児・者を家族で支える在宅実態や過酷な状況を詳細に把握し、レスパイト枠の拡充や夜間ケアを支える訪問看護・介護体制の整備、きょうだい支援など、ケアラー支援の視点に立った施策を大幅に強化すべきと考えるが、見解を伺う。

古沢 利之 議員（一般質問）

1 公共施設、学校等での男女別トイレの数について

- ・ 公共施設等での男女別トイレの数の差が問題になっている。
 - ア 市内の公共施設、学校等での男女別便器数の実態を調査したことはあるか。
 - イ 災害時に避難所としての役割が期待されるが問題はないか。

2 避難所運営マニュアルの整備について

- (1) 備蓄品の状況に課題はないか。
- (2) TKB48が強く求められるが、可能なのか。
- (3) 真夏の災害に、改めて懸念が強まっている。体育館への空調設置が始まったところだが、停電時の対応は考慮されているのか。

3 生活保護に関する最高裁判決に伴う「追加給付」について

- ・ 令和7年6月の最高裁判決を受けて、不十分ながら対象世帯に追加給付が実施される。市のホームページによれば現在、保護廃止の世帯は、追加給付に際し、申出が必要とされる。
 - ア 対象世帯に案内等は送られるのか。
 - イ 当該期間に保護を利用していた世帯情報は把握しているのではないのか。
 - ウ 最高裁で違法とされた減額は一方的に措置しながら、追加給付に申出を求めるのは適切なのか。

水橋 真治 議員（一般質問）

1 9月補正予算と来年度当初予算について

- (1) 9月補正予算に計上されている国県支出金の返納金69,421千円は、補正予算の一般財源122,373千円の5割を超えているが、その具体的な事業名と内訳はいくらか。
- (2) 69,421千円を返納するに当たり、予算の見積りは適切であったのか。また、予算を多く確保したことによる他の事業への影響はあったのか。
- (3) 今年度の当初予算編成に当たり、既存731事業のうち、廃止・統合事業は93事業、うち廃止した事業は44事業である。これから来年度の当初予算の編成が行われるが、どのような方針で行う予定か。

2 防災について

- (1) 今回の氷見市や石川県、福井県での線状降水帯による水害は、本市において想定できるものであったのか。
- (2) 本市を流れる河川の増水に対する防災対策はできているのか。
- (3) 避難所になるであろう市内の公共施設の安全点検は適切に行われ、修繕する等の安全対策は取られているのか。
- (4) 結ネットで8月27日の午前7時46分に「中滑川複合施設メリカ」に自主避難所を開設したと連絡が入った。最後に、「食料や飲料水、毛布などは、必要に応じて各自で持参してください。」とあったが、必要な物を持参できると想定したものであるのか。
- (5) 災害発生時の関係職員の対応、関係機関、町内会との連携、避難場所、そこでの備品の備えはできているのか。

藤田 紀子 議員（一般質問）

1 スクールカウンセラーの配置について

- (1) スクールカウンセラーを巡回型ではなく、駐在型として、常時、学校に1名配置できないか。
- (2) スクールカウンセラーの人材が不足している現状の打開策として、カウンセラーの資格を持つ定年退職した教員の雇用は考えられないか。

2 小中学校の卒業時に不要となる学用品について

- ・ 小中学校を卒業する際、不要となる学用品について、今後、必要とされる方に使ってもらえるよう学校へ置いていく（寄附する）ことはできないか。

3 シルバー人材センターの活用について

- ・ シルバー人材センターをさらに活用してもらえるよう、PRを強化することはできないか。

4 火災現場における瓦礫の撤去について

- ・ 本来、火災現場の瓦礫撤去は当事者がしなければならないものと認識しているが、市内には瓦礫撤去が進んでいない場所もある。町の美観のため、また近隣住民の生活環境保全のため、市で瓦礫撤去を行うことはできないか。

5 引きこもり状態にある方への活躍 機会の提供について

- (1) 市内の引きこもり状態にある方の総数はどのように把握しているか。
- (2) 引きこもり状態にある方へ就職に向けた訓練等の働きかけはされているのか。

6 小中学生の校外学習について

- ・ 小中学生の校外学習に、富山県広域消防防災センターのA L S O Kとやま四季防災館を見学先として、取り入れることはできないか。

安達 真隆 議員（一般質問）

1 防災・減災について

（１） ８月末の豪雨による本市の被害状況と初動対応について

ア ８月末の大雨における市内の時間最大雨量及び総雨量の実績と、道路冠水、床下・床上浸水、土砂崩れ等の被害状況の全貌を伺う。

イ 災害発生時における避難所の開設状況及び市民への情報伝達（防災行政無線、結ネット、LINE等）の伝達実績と初動体制の課題を伺う。

（２） 豪雨の現実的な雨量規模と本市耐候性（キャパシティー）について

ア メディア等で「時間雨量 100 ミリ」などの報道がなされるが、本市において「時間雨量何ミリ」を超えた場合に内水氾濫（下水・用水の溢れ）や河川の越水（外水氾濫）のリスクが高まるのか、本市の排水能力の基準値を伺う。

イ 市全体としての雨水排水計画の策定状況について現在、本市において市全域の雨水排水能力や浸水リスクを網羅した「雨水排水基本計画」または「雨水管理総合計画」のような指針は存在するのか。存在しない場合、これまでどのような基準で雨水排水設備の整備を進めてきたのか伺う。

ウ 市内の主要な排水路や側溝が時間雨量何ミリまで耐えられる設計になっているのか、市として市内の排水能力の限界値を網羅的に把握・試算できているのか伺う。

エ 近年の地球温暖化に伴う「想定外」の豪雨に対し、現在のインフラで対応可能と考えるか見解を伺う。

オ 今回の８月末の豪雨を契機として、国や県の補助制度（社会資本整備総合交付金等）も活用しながら、浸水リスクを科学的に分析し、優先的に改修すべき箇所を明確にする「雨水排水計画」を新たに策定する考えはないか、市長の見解を伺う。

（３） 河川氾濫時の想定被害と今後の防災・減災対策について

ア 市内を流れる二級河川（早月川・平塚川・郷川・中川・沖田川・上市川）が氾濫した場合のハザードマップ上の想定浸水区域及び、被害想定最新の最新の見直し状況を伺う。

イ 河川のしゅんせつや土砂撤去、用水路の監視カメラ設置など、今後のハード面での浸水対策を関係機関とどのように連携して進めていくのか伺う。

ウ デジタル技術を活用したリアルタイムの河川・水位情報の市民への公開や、夜間・大規模停電時における確実な避難誘導など、ソフト面の対策を今後どう強化していくのか伺う。

2 本庁舎について

- (1) 市役所本館空調改修のための、実施計画・工事等として当初予算で、1億6,600万円が成立しているが事業内容と進捗状況を伺う。
- (2) 市役所本館や周辺の施設の老朽化を踏まえ、建て替えを本市としてどのように考えているのか伺う。

大浦 豊貴 議員（一般質問）

1 水道料金及び下水道使用料を減免する施策について

- ・ 水道料金及び下水道使用料を減免する施策について不公平感を抱いていると、下水道未整備地域に住む市民から当局へ直接あるいは、市長への手紙を通じ伝えられた。6月定例会の一般質問のなかでも、下水道を接続していない世帯で物価高騰対策支援を受けられない市民との平等性について、市内の大半の住民、事業者に恩恵があるものと考え、著しく不公平感がある施策ではないと捉えていると回答があったところであるが、事業の検証を踏まえ見解を問う。

2 浜の活力再生プラン・滑川海業ビジョンについて

- (1) ホタルイカの漁獲量は、平成25年から令和3年の10か年平均で約396トンであったが、令和4年384トン、令和5年70トン、令和6年653トン、今定例会の市長提案理由では今年度の漁獲量は、326トンで昨年の222トンと比較して46.8%の増加と報告されているが、水産業を取り巻く現状等では、漁獲量の不安定さや魚価の低迷により安定的な経営が困難な状況であると報告されている。令和元年度から令和5年度の（5中3平均）単価は、1,230円／キログラムであり単価向上を目指す目標年令和11年度単価は1,333円／キログラムとしているが、本市の水産業の経営が安定するようなホタルイカの漁獲量や魚価について再生委員会の構成員である本市の見解を問う。
- (2) ベニズワイガニやホッコクアカエビの水揚げが多く、主な漁獲対象魚種となっているが、それらを含む滑川市場における漁獲量や卸売価格・燃料高騰等から漁業者の安定的な収入の現状について見解を問う。
- (3) 第2期浜の活力再生プランの計画期間においては、鮮度向上・高付加価値による魚価向上を目指し、新規製氷施設整備が検討されている。また、施設整備による労働環境の改善では、昭和55年度に整備された漁船上架用ウインチの撤去及び新設を行うことによる作業効率及び安全性の向上並びにコスト削減が検討されている。それぞれの進捗並びに整備額の見込みを問う。

- (4) 滑川市場と近隣市場を比較した場合に、卸売価格が低い傾向にあると報告されているが、その要因について見解を問う。
- (5) 今後の原油価格の推移も不透明であり、急激に上昇した場合の影響を緩和する備えとして、国の行う漁業経営セーフティーネット構築事業への漁業者の加入について効果的であるか見解を問う。

3 旧ゲートボール場再整備事業について

- ・ 令和8年6月定例会にて議案第21号令和8年度滑川市一般会計補正予算（第1号）において旧ゲートボール場再生事業費補助金として5,000万円が可決され、同事業に伴い議案第30号財産の無償譲渡及び無償貸付、近隣道路舗装予算も可決されている。議決時点では、実施事業は国の地域経済循環創造事業交付金の申請を行っている段階であり採択の内示を受けていない状況にあった。現状においても採択の内示は受けていないが、現状について報告を求める。

4 みのおテニス村再整備基本構想について

- ・ 今年度中に、みのおテニス村再整備基本構想を策定する計画であり、素案が総務文教消防委員会協議会に提出されたところである。素案では、若手職員や複数の民間事業者との意見交換や提案を踏まえて、再整備の内容として①スモールスタート型、②宿泊拡充型、③全面建替・ランドマーク型の初期投資・年間収支シミュレーションの比較・コンセプト・導入施設比較等が示されている。今後、議会を含め、各関係機関との意見交換や調整が図られるものと考えているが、整備計画にあたっては個々の整備内容のみで協議が行われ、施設類型ごとに各部局で管理・計画し、公共施設マネジメントが適切に行われているのか、従来の施設管理アプローチになっていないか疑問を感じるところである。本計画は縦割りではなく全庁的に共有され目指しているものか見解を問う。

吉森 真人 議員（一般質問）

1 なめりかわ共創ポイントについて

（１）導入の経緯・背景及び事業の概要と目的について

- ・ 本格導入から１年余りが経過した本事業について、従来の紙による「健康ポイント事業」からLINEを活用した「なめりかわ共創ポイント」へと大きくかじを切った。改めた経緯と背景、並びに多分野（健康・地域貢献・市政参加）を統合した事業の概要と本来の目的を問う。

（２）利用実績と世代別利用状況について

- ・ 本年７月より第３期がスタートしているが、第１期・第２期における参加者数（利用者数）及び賞品への応募者数の推移、並びに世代別の利用割合と参加層の変化について実態を問う。

（３）新旧制度の比較とデジタルデバйд対策について

- ア 旧「健康ポイント事業」と比較した本事業の成果や市民目線でのメリット・デメリットについて市の認識を問う。
- イ デジタル化に伴い、旧制度を利用していた高齢者等のスマホ非保有者や操作に不慣れな市民が取り残されていないか、救済策やサポート体制の現状を問う。

（４）制度の認知向上・利便性改善と今後の持続可能性について

- ア 公共施設以外の「健康づくり協力店」等の店舗でポイントが獲得できる仕組みやQRコードの設置場所、マイナンバーカード連携による特典・認証手続きについて、市民から「分かりにくい」との声があるが、周知・改善策を問う。
- イ 今後の参加者数の目標設定や制度の持続可能性（予算・景品確保等）、並びにデータ利活用を通じた「市民の行動変容」という本来の目的に向けた今後の展開と所見を問う。

2 AIチャットボットの活用と市民サービスの向上について

(1) ターゲット層の設定と本格稼働後の利用・検証状況について

- ア 本年4月から本格稼働している市ホームページ及びLINE上の「AIチャットボット」について、令和7年11月からの試験運用を踏まえた導入の背景と目的、並びに当初想定していたターゲット層を問う。
- イ ホームページ全体のアクセス数（閲覧数）に対し、AIチャットボットの利用数や問い合わせ件数は現在どれほどであり、ターゲット層の利用実態やニーズと合致しているかの検証状況を問う。
- ウ 利用者はどのような目的や行政情報を求めてアクセスしていると分析しているか、また、市民が求める回答が得られているか（回答精度の現状とログ分析・データ更新等の運用体制）を問う。
- エ 3月定例会において「職員の問い合わせ対応に係る負担軽減」を導入目的に掲げられていたが、本格稼働後、窓口・電話対応の削減や開庁時間外の対応など、庁内業務の効率化（DX効果）にどのように寄与しているか具体的な見解を問う。

(2) 9言語への対応拡大と外国人住民・観光客への実効性について

- ア 本年9月より対応言語を9言語へ拡大することのだが、具体的にどの9つの言語なのか、また、この9言語によって市内に住む外国人住民の何割（どれだけ）をカバーできるのか、併せて国内の外国人や訪日外国人のカバー率をどのように捉えているか問う。
- イ 市ホームページ自体は既に多言語対応がなされていると承知しているが、今回AIチャットボットまで9言語化することによる利便性や行政効率の向上（DX効果）をどのように見込んでいるのか。また、それだけで外国人住民等の課題解決に事足りると考えているのか、今後の外国人への周知・活用策を含めて見解を問う。

3 市内の街路樹の適切な維持管理と安全対策について

(1) 街路樹の老朽化・巨木化の現状と国土交通省の新指針に基づく点検体制について

- ア 高度経済成長期以降に整備され老朽化や巨木化が進む市内の街路樹について、狭い植樹柵による生育不良や幹の内部空洞化に伴う倒木・落枝のリスク、並びに通行障害や標識・信号の視界阻害等の現状認識を問う。

- イ 本年3月30日に国土交通省から公表された街路樹の点検手法に関する初の指針において、通学路や緊急輸送道路等における「年1回以上の近接目視点検（優先度A区分）」などが求められているが、本市における法令や指針に沿った点検の実施状況、並びに該当する街路樹の本数・対象路線の把握状況を問う。
- (2) 豪雨後の緊急点検、計画的な世代交代、及び市民通報への「共創ポイント」活用について
 - ア 先月の豪雨（8月豪雨等）の発生時、及びそれ以降において、樹木医等による専門的な診断や打音調査を含め、市内の街路樹の傾きや倒木・落枝リスクなどの現地確認・緊急点検を行ったのか。その実施状況と対応を問う。
 - イ 従来の「傷んでからの剪定」から、危険木の伐採や計画的な若木への植え替え（世代交代）といった「予防保全・質の向上」へ方針を転換する考えはないか問う。
 - ウ 危険な街路樹の早期発見に向け、市LINE公式アカウントの「道路損傷通報機能」を街路樹通報にも分かりやすく周知するとともに、通報を行った市民に対して「なめりかわ共創ポイント」を付与するなど、市民協働（共創）による迅速な通報体制を構築する考えはないか、市の見解を問う。

4 不登校児童・生徒への支援と対応方針について

- (1) 市内における不登校の現状と「ほっとルーム」等の取組状況について
 - ア 市内小中学校における直近の不登校児童・生徒数の推移と全体傾向、並びに学校別や要因別の分析状況を問う。
 - イ 全校展開が進む校内教育支援センター「ほっとルーム」や教育支援センター「あゆみ」、「オンラインなめりかわ塾」等による支援の現状と成果、及び利用実態における課題を問う。
- (2) 不登校の要因把握と保護者（家庭）への伴走支援体制について
 - ア 不登校の要因分析について、児童・生徒が置かれた環境や学校風土、学習のつまずき等の根本的な要因に対し、教育委員会としてどのように向き合い把握しているか見解を問う。
 - イ 児童・生徒本人の居場所づくりにとどまらず、不安や課題を抱える保護者（親）を孤立させないための相談・伴走支援体制の現状、並びに「全員が安心して学校・集団での学びに復帰できる環境づくり」に向けた今後の教育委員会の方針を問う。

上田 昌孝 議員（一般質問）

1 安心して眠れる滑川に

- （１） 沖田川、田中川の最大雨量時の写真はあるのか。
- （２） 滑川市は上から圃場整備、区画整備が進められ、町部の整備は手つかず状態である。
- （３） 最近の新しい家は庭はコンクリート。
- （４） 中川放水路は全て自動水門に切り替えに要望せよ。
- （５） 県、国へは強力な要望を。

2 行政は時間（宮崎市長）

- （１） 体育館の空調の進め方が遅い。
- （２） 文科省より体育館の空調の予算が「まだある」と回答をいただいたと教育委員会に伝えたが動かなかった。“なぜか。”

3 放課後児童対策

- ・ 南部小学校と寺家小学校